

(様式第3号)

## 政務活動報告書

会派(議員)名 ( 柳 大地 )

活動事項	行政視察
活動年月日	令和5年2月6日(月)から令和5年2月8日(水)まで
場所	岐阜県下呂市
活動の相手	下呂市立下呂中学校
参加議員名	柳 大地
目的・内容 ・結果等	別紙報告書のとおり
関連する 支出伝票番号	6

# 視 察 報 告 書

2023年 2月 9日

鳥取市議会議長 様

鳥取市議会 無所属  
柳 大地



2023年2月6日から2023年2月8日まで視察いたしましたので、その結果を下記のとおり報告します。

## 記

**目的：**教員の労働環境改善に向け、先進的な取り組みしている学校を訪問し、現場の教員・生徒・教育委員会の声を収集し、今後の検討材料とする。

**視察行程：**2月6日 移動日

2月7日 学校視察（下呂市立下呂中学校）

7:50 職員室にて全教員へ挨拶	14:30 養護教員聞き取り
8:05 グラウンドにて学年朝礼	15:00 事務職員聞き取り
8:40 校長室にて取り組み説明	15:30 清掃（生徒聞き取り）
9:30 生徒指導会議視察	15:45 部活（生徒聞き取り）
10:30 教育委員会からの説明	16:30 生徒見送り
11:30 教頭先生による学校案内	16:40 聞き取り整理
12:30 給食	17:00 一般教員聞き取り
13:15 教務主任聞き取り	19:00 校長挨拶・終了

2月8日 移動日

**視察先：**

下呂市立の全6中学校は令和4年度4月より、教職員の働き方改革の一環として、教職員の退勤時間に合わせ生徒の放課後活動を16時半までとした。本取り組み実施後、教員の繁忙期である4月・5月において、両月とも前年度同月比-10時間以上の超過勤務時間減を達成するなど確かな成果を出している。

本取組導入の背景としては、山間部に位置する同地域においては日没も早く、帰宅時間が遅いことによる安全面の不安や、下校後も夕食の時間をまともにも取ることもできず塾等の習い事に出かけるなど、体調面にも不安を抱えていた。また、教員においても生徒の下校後からようやく翌日の授業準備が始まり、帰宅時間が深夜に及ぶなどし、体調を崩し休職者も出ている。

そんな折に起きたのがコロナによる約2ヶ月にわたる休校であった。同地域では自然災害も同年重なり、結果的に3ヶ月弱に休校を余儀なくされたが、年度末には全てのカリキュラムを終える事ができた。この1年をヒントに、学校行事並びに時間割の見直しを全市で図り、授業時間数を削減せず、さらには部活動を週3回確保した上で16時半下校を実施できることが分かり、約半年間の試行期間実施後、本格導入に至った。

本取組の詳細過程・内容については、下呂市教育委員会から用意していただいた視察資料【資料A】並びに、同校中村校長によるレポート【資料B】を参照いただきたい。

## 所見等：

本視察では、教職員約 15 名・生徒約 30 名に聞き取りを行い、時間は教員が一人当たり 5～30 分、生徒は一人当たり 5 分程度（数人一斉も含む）とした。その結果、特に声が多かった次の 2 点「16 時半下校に伴う成果」「学年担任制の影響」について所見をまとめる（【資料 A】・【資料 B】参照後推奨）。

### ①「16 時半下校に伴う成果」

#### ・生徒の生活意識

まず第一に多くの教員から「16 時半下校は教員の働き方改革として始まったが、生徒にとって良い影響が、それ以上に大きい」という話が出た。実施半年後にとった生徒アンケートにおいても約 8 割の生徒が「生活意識が良くなった」と回答した（下校時に使用する市バスの関係により、帰宅時間にあまり変化のなかった生徒たちが、残りの 2 割を占めている）。実際に私が行った生徒への聞き取りでは、ほぼ全ての生徒から「16 時半下校の方が良い」という声上がり、理由としては「(自由時間が増えた分) 時間の使い方を自分で考えるようになった」という声が多くなり、「自宅学習」「部活や習い事の自主練習」「家族との時間」の 3 点が増えたという生徒が多かった。

#### ・心身のストレス

養護教諭からの聞き取りでは、令和 4 年度は前年度に比べ明らかに保健室利用者数が少ないという話を聞く事ができた。「下校時間が早くなった事がどれだけ（利用者数減に）影響をしているかはまだ分析しきれていない」という前提ではあったが、明らかに一因になっているとの見解であった。不登校生徒数も減少傾向であり、その点においても取り組みが一因になっているとしていた。

#### ・教員の帰宅時間

視察日の 2 月上旬は下呂中学校の三重大行事の一つである「三送会」直前であり、当校においては繁忙期の位置づけであった。それでも生徒は時間を延長することはなく、16 時半に全ての活動を終え下校していた。職員は行事打ち合わせなど、通常時期では行っていない会議等も入っていたが、私が視察を終えた 19 時過ぎには約半数の教員が帰っており、20 時には学校も閉めるとのことであった。教員への聞き取りでも「家族との時間が増えた」「労働時間に対する意識が変わった」「(余裕ができ) 週末の過ごし方が変わった」などの声が上がっていた。

#### ・教員同士のコミュニケーション

多くの教員から「以前と比べ（教員同士で）生徒の話が増えた」という意見が出た。これは今まで学校現場にいた私としても、納得の意見であった。多忙を極める学校の職員室では、教員同士では必要最低限の事務的な連絡のみとなっていく。教員一人ひとり視点も違えば生徒との関係性も違い、本来、何気ない気づきを教員同士で共有することがトラブルの事前防止や配慮の行き届いた声がけに繋がる。しかし、そのようなことは理解していても、その共有の時間すら惜しいほど余裕がないのだ。そして、結果的に未然に防げたはずのトラブルが大きなトラブルとなり、その対処に一層時間を使うことになるという負のサイクルに陥っていく。下呂中学校では、明らかにそのスパイラルから抜け出しており、教員同士の会話量が非常に多く見受けられた。

### ②「学年担任制の影響」

#### ・学年担任制とは

通常の学級担任制は 1 クラスに対し担任が 1 人つくが、学年担任制では生徒のクラス分けはあるものの学級担任という概念はなく、学年の生徒を担当の教員団で受け持つ。学年を受け持つ教員数は学級担任制・学年担任制ともに同程度であり、下呂中学校では 1 学年 3 クラスを 4～5 人の担任団で受け持つ。

#### ・学年担任制のメリット

まず第一に事務作業の効率化が挙げられる。例えば、通知表を例に挙げると「出欠数」「部活動関連」「成績」「所見」などの項目があり、これらの項目を全クラスの担任がそれぞれ確認し打ち込んでいく。しかし、学年担任制ではA教員が出欠数の確認、B教員が部活動関連、C教員が成績、所見はA～C教員全員でという形で分業体制をとる事ができる。たったこれだけのことで、明らかに学校全体で通知表に費やす事務時間は削減されるのだ。第二に、クラス経営に関する心理的な負担の軽減である。現在、多くの地域で慢性的な教員不足のため新卒1年目の教員であってもクラス担任を受け持つ場合が多い。日々の授業準備に加え不慣れな学級経営、自分よりも一回り以上歳上の保護者との面談など、若手教員への心理的な負担は大きい。しかし、学年担任制では複数人で問題を共有できるため、一人の教員が抱え込むことが少なくなる。面談は保護者対応が得意な教員が入り、若手はその面談と一緒に入り対応を学ぶこともできる。

#### ・学年担任制の留意点

学年担任制は担任団で情報共有を行う事が前提のシステムである。当然、学級担任制に比べ会議の回数は増えることになる（しかし、複数人の目が入ることにより、トラブルの事前防止が強化され、生徒指導等の時間が減り結果的に労働時間は短くなる）。また、保護者アンケートより「誰に相談したらいいか分かりづらい」という結果より、下呂中では学年団の中で「進路」「生活」「学習」などの役割分けをし、保護者からの相談先をわかりやすくした。

#### ・教員の声

本視察の主目的は16時半下校に関する調査としていたが、現場の教員の多くがこの学年担任制のメリットを強調していた。「16時半下校の環境で一度働いたら前の労働環境に戻れないように、学年担任制も同じくらい前（学級担任制）には戻れない」という声も複数人から聞こえるくらい、働き方改革において重要な点であることが伺えた。特に若手教員にその傾向は強く、「物理的にも、心理的にもだいぶ救われている」と多くの声が出ていた。

#### ・学年担任制導入の課題

学年担任制においては学年主任の舵取りが一層重要になり、その役割を担う教員の育成が課題である。情報を常に学年団の教員から収集し、迅速にサポートを打っていく幅広い視点と対応力が求められる。「学年主任が学年の方向性を決める」と言っても過言ではない重要なポジションなのだ。下呂中においては、30代でも力のある教員を積極的に学年主任に任命し、働き方改革と同時に人材の育成も取り組んでいた。中村校長曰く、「学年団をまとめていく経験を通して幅広い視点を獲得し、ゆくゆくは学校を支えていく存在になってほしい」と、不足する管理職の育成にも有効であることを示唆していた。

#### 最後に：

「学校から帰るときに、先生も同級生も、みんな顔が明るいです」  
これは今回生徒に聞き取りをした中で、最も印象に残っている言葉である。周りにいた同級生も「ウン、ウン！」と何度も共感を示していた。前年までは長時間の授業や部活動で下校時にはみんなが疲労感から、生徒も教員もどこかピリピリしていた様子があったという。それが今では下校時もみんなどこか余裕があり、お互いに笑顔で声を掛け合っていて一日の別れができていくと。日没前の明るいうちに帰るということは物理的な余裕に加え、心理的余裕も生み出しているのだ。「疲れた日は早く寝てリフレッシュするようになった」と答えてくれた生徒は、自由時間の使い方を考え、ダラダラと頑張り続けるのではなく、メリハリのある生活を意識しているという。「教員の働き方改革は生徒にとってのメリットが大きいんです」、中村校長はじめ各教員が口にしてきたこの言葉を、生徒たちの言動からも幾度も強く感じた視察であった。 以上。

岐阜県下呂市内教職員の働き方改革の取り組みについて

【中学校の 16:30 下校】

- ・ 令和 4 年度 4 月より市内 6 中学校が一斉に 16:30 下校を開始
- ・ 16:30 までに部活動を含むすべての活動を終了して下校 (学校ごとに週 2・3 回の部活)
- ・ 従来の日課を変更し掃除をしない日や 5 校時までの日を設定 (年間授業時数は確保)。
- ・ 行事に関わる練習や準備の時間の一部を授業内に行わないようにして授業時間を確保

ある中学校の日課

これまでの時間割

	月	火	水	木	金
8:05	1～5時間目				
	6時間目				
15:05	掃除				
	短学活				
		委員会			
16:30	部活		部活	部活	
17:35					

新しい時間割

	月	火	水	木	金
	1～5時間目				
	6時間目	短学活 掃除	6時間目	6時間目	短学活 掃除
	短学活	部活	短学活	短学活	部活
	掃除		7時間目		
	生徒会議				

Q1 本取組の目的は？

A1 生徒にゆとりのある生活を生み出すこと・教職員の働き方改革

**教職員の働き方改革**として、平日の部活動の時間をどうにかしたいという課題があった。一方、生徒にとって下校後のスケジュールはタイトで、家庭学習や自分のやりたいことに取り組む時間などが少なく睡眠時間を削らなければならないような現状もあり、**生徒の生活へのゆとりをもたせることも課題**であった。その両面を解決できる案として 16:30 下校が発案された。

Q2 16:30 下校の発案はどこからか？

A2 下呂市教頭会中学校部会が発案

令和 2 年度 4・5 月に**全国一斉休校**となり、授業を行えない期間があった。この時には夏季休業日の一部を授業日に充てたものの、**多くの授業日数を失った**。それでも年間を通して**行うべき授業時数をクリア**することができた。かねてから**超過勤務**の多い中学校では部活動の指導時間が課題であったが、この経験をきっかけに **16:30 までに部活動も含めたすべての活動が終了する日課の作成**を考えついた。

教頭会で日課の修正や行事の精選なども考え、6 校すべての中学校で授業時数の確保が見込まれることが分かった。令和 2 年度末に 16:30 下校についての提案を校長会に具申した。

Q3 行うべき授業時数は確保できるのか？

A3 授業時数の確保はできる

文科省により年間 35 週 175 日で学習することになっているが、下呂市は夏季休暇が短いので年間 205 日 41 週も授業日があるため**余裕が 6 週で 30 日分** (205 日 - 175 日) ある。

今年度より、削減授業時数の一番多い学校は**週 2 時間を削減**して部活動に充てている。そのため、**削減授業時数は年間 82 時間**(2 時間×41 週)となる。

**余剰授業時数は年間 162 時間**(週 27 時間×6 週)あるので (余剰時数) - (削減時数) = 80 時間となり、**約 13 日分の余裕**(80h÷6h)がある。

ただし、3 年生は 3 月 8 日に卒業するため、1・2 年生より 11 日少なく、約 2 日分の余裕しかない。この学校の場合、後期に 3 年生は部活を引退しているため 3 年生だけ部活の時間に授業を行って、取りこぼしを防ぐようにしている。

Q4 16:30 下校の準備段階での保護者や生徒、教職員の反対の声の有無は？

A4 反対の声はなかった

校長会では教頭会の案を受け、**令和 3 年度の後期**にすべての中学校で 16:30 下校として**試行期間**とした。これまでも後期は日没が早くなることより下校時刻は 16:30 であったが、部活動の時間を 6 校時までの日課に組み込んで試行をした。その期間中に保護者や生徒、職員から**反対の声はなかった**。

Q5 教育委員会は何をしたか？

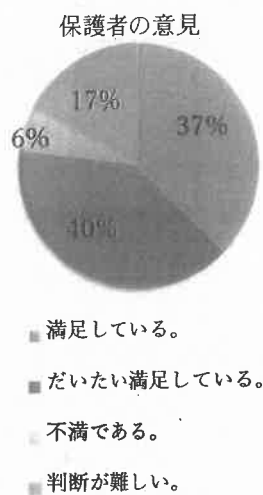
A5 生徒の通学バスの運行ダイヤの変更を行った

令和3年度前期、校長会からの依頼を受け、教育委員会事務局では**バス運行の検討**を行った。市教委所持のスクールバスの運行は自由にできるので問題はなかった。しかし、一般市民も乗り入れる**コミュニティーバス**を利用して登下校している学校に関するバス運行ダイヤの変更は一般市民への影響も懸念された。行政の担当部局の協力によって**一般市民への影響も少ない**ことが分かったため、**下呂市公共交通会議での承認**を得て、バス運行ダイヤの変更ができた。

Q6 16:30 下校の保護者・生徒・教職員の声は？

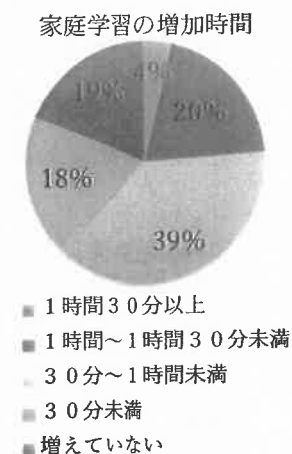
A6 <保護者の声>

- クラブの夜の練習や塾のある日は時間に余裕があって良い。
- 家族の会話が増え、進んで手伝いをしてくれるようになった。
- 小、幼稚園兄弟との生活リズムが合わせやすい
- 先生方の生活の充実と働き方改革を目的としたよい取組だと思う
- △自宅でのリラックスできる生活を送れている反面、テレビやゲームの時間が増えてきている。
- △部活動の時間が少なくて残念。



<生徒の声>

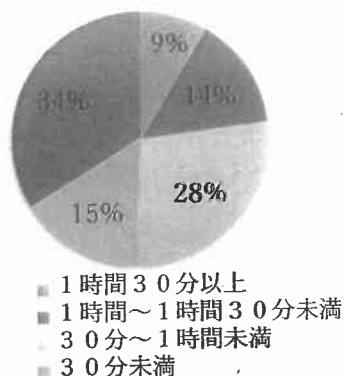
- 自由な時間が増えたことで、学習や部活の自主練、家族の時間など作れた。心の余裕が生まれた。
- 家で時間に余裕ができ、生徒会活動や学習に集中して取り組める時間が増えて生活がよりよくなっている。もっと効率的に時間を使いたい。
- 受験生として勉強に時間を費やすことが可能になったのと、趣味を伸ばす時間が増えた。
- △前よりも勉強時間は増えたけど、目標達成のためにもっと部活をしたい気持ちもある。



くらしぶりの昨年度との比較  
2.4%



家族と過ごす増加時間



<教職員の声>

- 職員室で明るい時間帯に、生徒のことを笑顔で話す姿が増えてきた。
- 中学校は専門教科を教えるため、小学校より勤めやすいと感じるようになった。
- 帰宅後に疲れてしまってすぐに寝ていたけれど、今は体が楽。
- 16:30 下校となり、自分や家庭の時間をとることができる。
- 下呂市は、子育てと仕事が両立できる環境が整い始めてきている。

平日における時間外勤務の月平均

61.5 時間

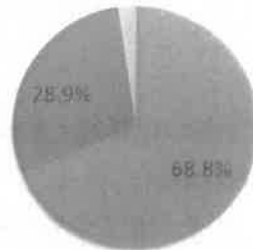


R3 年度 4月～7月

R4 年度 4月～7月

下校後の時間の使い方

2.4%



■ よくなった ■ どちらともいえない ■ よくない

Q7 年間授業日数等の令和3年度と令和4年度での変化は？

A7 ほぼ変化はない

下呂市内すべての学校において**年間授業日数は同一**。長期休業日の短縮はしておらず、土曜授業も行っていない。

1・2年生は令和3年度が**205日**で、令和4年度は**202日**の予定。(暦の具合)

3年生は令和3年度が**193日**で、令和4年度は**191日**の予定。

なお、**5時間授業**は令和4年度で1・2年生が**83回**、3年生が**63回**の予定。(週2回)  
令和3年度の5時間授業は令和4年度の半分ほど。

Q8 令和4年度に縮小・削減した教育活動は？

A8 約40時間程度削減→教科の授業に

**時間数の削減**をした内容

集会(学年・全校)・運動会の係会・学年の校外研修・三年生を送る会・スポーツテスト・行事の準備や片付け

**無くした内容**

中体連市大会・委員会(生徒会)

Q9 16:30 下校と部活動地域移行との関わりは？

A9 どちらも働き方改革としての取り組みであるが、別々の取り組み

働き方改革として**平日の部分**について考えだされた案は校内の日課の変更などを決定する**校長会が主**として取り組んでいるが、部活動の地域移行については**土日の部分**であり、**行政が主**となって考える部分として取り組んでいる。



## 【部活動の地域移行（休日）】

### ＜実態＞

- ・生徒数は減少するが、部活動数（競技種目等の種類）はほとんど減少していないことにより、1つの部活動あたりの人数が減少し、成立しない部活動も出てきた
- ・学校規模が小さく生徒にとってやりたい部活動の選択肢が限られている学校も
- ・教職員にとって専門ではない部活動の顧問や人によっては部活動がストレスにも

### ＜下呂市の部活動の在り方のコンセプト＞

- ・生徒がやりたいことに挑戦でき、誰もが参加できる（特に経済面）
- ・生徒が専門的な指導が受けられ、技能の向上をはかることができる
- ・生徒が切磋琢磨でき、社会性を養うことができる
- ・教職員にとってやりがいとなり、充実感が味わえる

### ＜部活動の形態＞

- ・平日は学校ごとに指導（従来どおり）ただし、全員参加ではない
- ・休日は合同部活動（複数の学校が合わさる）で、拠点校に集合して活動
- ・指導者は生きがいとしてやる人（地域、教職員）

### ＜これまでのあゆみ＞

#### ○令和2年度

- ・下呂市スポーツ推進計画の修正追加にて、令和7年度までを目標に下呂市地域部活動を構築

#### ○令和3年度

- ・一部の部活動で総合型地域スポーツクラブによる地域指導者での指導を試行（岐阜県指定）
- ・合同部活動や合同練習ができる部活動の実施  
野球（3拠点）・陸上（1拠点）・剣道（2拠点）・バスケットボール（1拠点）・バレーボール（2拠点）  
吹奏楽（1拠点）
- ・移動手段としてスクールバスの活用 233万5千円
- ・部活動指導員6人 小学校教職員の部活動兼務5人

#### ○令和4年度

- ・下呂市のすべての学校で合同部活動や合同練習を行う部活動を推進  
野球（2拠点）・陸上（1拠点）・剣道（2拠点）・バスケットボール（2拠点）・バレーボール（2拠点）  
吹奏楽（1拠点）
- ・移動手段としてスクールバスの活用 181万4千円
- ・部活動指導員33人 小学校教職員の部活動兼務4人

## 下呂市部活動移行（合同部活動）

- ① 合同部活動のさらなる推進（やりたい部活動の維持） R4前期43部活
- ② 指導者バンク（部活動指導員R4後期33人：市教委からの委嘱を将来は市長部局へ）
- ③ 生徒移動手段の確保（スクールバスや路線バスの活用）

## <下呂市として>

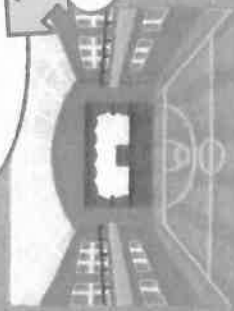
休日の部活動

顧問  
(教師)



ニーズに応えるクラブ  
地域部活動サークル

拠点校



A校

B校

総合型スポーツクラブ・地域スポーツ団体との連携

- ・ 指導者（1人あたり）911円×3h×48日＝131,184円
- ・ 拠点校へのバス費用  
北部27,500円×48回 南部30,000円×48回

野球

南中・北中  
小坂中  
下呂中  
竹原中

バスケットボール  
男子 女子

南中  
北中

南中  
小坂中  
下呂中  
竹原中

バレーボール  
男子 女子

南中  
北中

下呂中  
小坂中

剣道  
男女

南中  
下呂中  
竹原中

陸上競技

南中  
小坂中  
北中  
下呂中  
竹原中  
金山中

吹奏楽

下呂中  
金山中

テニス

卓球

その他  
クラブ  
チーム

合同部活動

R4前期における合同部活動

<部活動地域移行のめざす方向>

- ・指導者は生きがいの人 → すべて地域の人（教職員も地域の人として）
- ・合同部活動で行っている活動団体それぞれの組織をつくる → とりまとめはスポーツ協会
- ・移動手段はそれぞれの団体に任せていく

<課題>

- ・指導者謝礼の財源確保（1人約13万円/年 43部活動に複数指導者=86人.1118万円必要）
- ・指導者の確保（R4年度：社会人指導者は33人、教員34人・スポーツ協会の人材バンク化）
- ・活動団体の組織化（部活動育成会を持続可能になる組織に・スポーツ協会での位置づけ）
- ・市教委と市長部局（まちづくり推進課スポーツ担当）との連携

**【その他の教職員の負担軽減策】**

- ・市費会計年度職員（教育相談・特支対応支援員・スクールサポートスタッフ）の配置 36人
- ・統合型校務支援システムの導入・活用（岐阜県推奨システム Te-Compass）315万円/年  
通知表作成・指導要録作成・出席簿管理・健康診断管理・保健室日誌・出退勤管理・調査書作成
- ・給食費公会計化・教材費公会計化（令和5年度より）



# 教職員の働き方改革を推進し、生徒の生活の充実を図る学校経営

～ 生徒の活動終了“16時30分”の教育課程の編成より ～

岐阜県下呂市立下呂中学校  
校長 中村 好一

## I はじめに

本校がある下呂市は、岐阜県飛騨地区の南、美濃地区と接し、東は霊峰御嶽山を仰ぎ、北は高山市と接する街である。本校の中心部は、益田川に沿う温泉地域であり、南東部は、輪川・門和佐川に沿う上原地区、中原地区を校区としている。

生徒数は、211名、教職員24名の学校であり、校区には、250人規模、

下呂温泉がある下呂小学校、

50人以下の小規模校、穏やかな農村地帯にある上原小学校と中原小学校がある。異なった地域の特性は、保護者の考え方にも差を感じ取ることができる。しかし、それぞれの地域の保護者や住民の願いは、

- ・下呂市の担い手（働き手だけでなく、下呂を大切に思うこと）として活躍してほしい。
- ・予測困難な時代だからこそ、よりよい判断をし、乗り越えられる強い心と実践力をもってほしい。
- ・命を守ることを最優先とした行動がとれるようになってほしい。

等と共通しており、学校への期待は大きい。

## II 研究の概要

### 1 研究のねらい

昨年までの本校の夏日課（3月15日～10月14日）は、月曜日は教職員の会議の日と位置づけ、生徒は15時45分に下校していたが、火曜日から金曜日は3回の部活動時間を含め17時50分が生徒の最終下校であった。上原、中原地区はバスを利用しており、帰宅の遅い生徒は19時をまわっていた。

帰宅後、生徒の多くは、毎日ではないが、塾や習い事、夜のクラブ活動等に通っており、家族団欒の食事や生徒の自由な時間が確保されていないと感じていた。健康障害までは確認できないが、疲れた顔で登校する生徒、不登校傾向の生徒の増加が課題となっていた。

また、教職員においても、生徒の下校後から始まる教材研究や校務分掌の仕事などにより、帰宅時間が遅くなっていた。下校後の職員室で黙々と仕事をこなす教職員の姿からは、若手教員への指導や生徒の学力の定着や社会性の育成に対しての新たな発想が生まれる雰囲気は感じられない状況であった。

下記の資料は、令和3年度4月、5月の教職員の超過勤務時間等を示した表であり、このような状況が前期（4月から9月）は続いていた。

《令和3年度教職員（20人）の超過勤務時間等》

	4月	5月	年
超 勤	61h	59h	582h
自己研鑽・休息等	10h	8h	
80時間超	5人	4人	
45時間超	10人	10人	

このような状況を改善すべく、昨年度の後期（10月から3月）より教育課程を見直し、生徒の活動終了時間を16時30分（学校の勤務時間）に固定し、教職員の超過勤務時間を減らすとともに、教科指導や生徒指導における創造的な探求ができる環境を創る取り組みを始めた。また、同時に生徒にとっても、本校の学校教育目標「ひとり歩きできる生徒」に向かって「目標や課題に向かって追求し続ける力（本校の求める資質・能力）」を発揮し、充実した生活が送れるようにしたいと考えた。

### 2 目的

#### 【生徒の生活の充実】

生徒が早く帰宅できることで、夕食前に時間が確保できるようになり、塾や習い事、クラブ等のある日も学習や読書などができたり、自分の目標に向かって追求したりすることができ、ゆとりある時間が過ごせる。就寝時間も早くなり、生徒の健康管理にも繋がる。

### 【教職員の働き方改革を推進】

生徒の活動を勤務時間内に収めることで、時間外勤務を減らすことができるとともに、授業の準備や生徒の育成方法を検討するなどの時間ができる。それにより、教職員の心身の健康が保たれ、疲れを溜めずに、元気に生徒と向き合うことができる。

### 3 日課の見直し

一昨年度のコロナ禍による2か月の休校措置、そして下呂市を襲った災害により2週間に及ぶ休校措置を余儀なくされた。しかし、時間の使い方や行事の精選などを考えたことで授業時間を確保できた。そのことをもとに日課の見直しを図った。

#### (1) 令和4年度の日課

	月 曜	火 曜	水 曜	木 曜	金 曜
朝活			8:05～8:20		
1限			8:30～9:20		
2限			9:30～10:20		
3限			10:30～11:20		
4限			11:30～12:20		
給食			12:20～12:55		
昼休み			12:55～13:10		
5限			13:15～14:05		
6限	14:15～15:05		14:15～15:05	14:15～15:05	
終活	15:10～15:25	14:10～14:25	15:10～15:25	15:10～15:25	14:10～14:25
掃除	15:30～15:45	14:30～14:45			14:30～14:45
7限			15:35～16:25		
放課後	部活動なし 生徒会催しの日 15:55～16:30 最終下校 16:45	部活動 14:55～16:30 最終下校 16:45	部活動なし 最終下校 16:45	部活動 15:35～16:30 最終下校 16:45	部活動 14:55～16:30 最終下校 16:45

#### (2) 令和3年度からの見直し

令和3年度から見直した日課は以下のとおりである。

- ・生徒の活動終了時間、16時30分
- ・火曜日と金曜日は5時間授業、その後部活動
- ・水曜日は7時間授業 午後は主に総合的な学習の時間や学級活動
- ・昼休みを5分短縮の15分間
- ・終活の時間を5分短縮の15分間
- ・掃除時間は、水曜日・木曜日はなし
- \*後期、部活動を終えた3年生については、火曜日、金曜日の6時限を教科に充てる場合もある。

#### (3) 授業時間確保のための行事等の見直し

日課の見直しに伴う授業時間の確保については、以下のように既存の組織の廃止や行事の廃止、縮小を行った。以下のとおりである。

- ・生徒会執行部と学級委員会による生徒会組織、生徒会委員会の時間の廃止
- ・1年・2年の宿泊研修を縮小し、1日研修
- ・市総合体育大会を廃止し、種目毎の開催
- ・儀式的行事の練習の削減
- ・節目の集会を授業開始前に実施
- ・運動会や三送会等の取り組み時間の削減
- ・職場体験学習を地域に委ね、1年間の職場体験学習（寝屋子学習）として実施

#### 4 生徒の帰宅後の時間の有効活動を誘発する取組

本校の学校教育目標は「ひとり歩きできる生徒」であり、そして本校が求める資質・能力は「目標や課題に向かって追求し続ける力」である。学校で培った力が発揮する場合は帰宅後の生活でもあると考え、評価の窓として捉えている。

評価の場ということで傍観するのではなく、時間の有効活用について生徒とともに考えることが大切だと考え、以下のような方法の提案を行った。ただし、あくまでも生徒が自由に使う時間と捉え、押し付けではなく、考える材料のひとつと捉えている。また、休息や趣味への時間なども大切であることを前提として提案する。

##### (1) 探求的な学びの勧め

夏休みの一研究や作品づくりは、まさに探求的な学びである。同じように帰宅後の時間の有効活用の一つとして、それぞれの教科で魅力的な探求的な課題を提示する。

また、学力の定着に不安な生徒には、教師サイドから家庭学習の仕方を教え、マンツーマン方式で支援する。

##### (2) 読書の勧め

読書好きな生徒は、時間をみつけ読書をしている。しかし、多くの生徒の読書の優先順位は低いのが本校の特徴である。時間にゆとりがある時に本に手を伸ばし、読書をさせたい。そんな思いから、「鞆に本」を合言葉に図書館で本を借り持ち歩かせる。

##### (3) 部活動の目標に向かった活動の勧め

それぞれが目標をもって取り組んでいる部活動。更に力を付けたいと思っている生徒に練習の方法などの提

示を行う。

#### (4) 奉仕活動等の勧め

本校は今年度、有志（全校生徒の9割強）による担当を決めた独居老人とのふれあい活動が行われている。また、2年生については、1年間の職場体験学習を行っている。それらの時間に充てられることも話している。

### 5 教師の意識改革

生徒達に時間の有効活用を言っている以上、教職員の時間の有効活用を考えなければならない。そのために以下のような姿勢を確認し合っている。

#### (1) 教職員が目指す姿

ひとり歩きできる生徒を育成するために頭を働かせたり、同僚と頭を突き合わせたりする時間とする。そして生徒に寄り添う時間を増やす。

16時30分生徒活動終了に伴い減少する部活動時間や減少する掃除日に伴い、いかに効果をあげる指導をするか。生徒達の帰宅後の時間をいかに有効活用させるかなどを考えていきたい。

#### (2) 業務について

事務的な仕事、生産性はないが、やらなければならないことは前例踏襲でこなしていく。毎年同じことを教える教科指導は、前年度をもとにして、それを改善していく。

また、従来の業務に対しては、なぜ必要か、なぜ時間が必要かという批判的思考をもって前例踏襲は打破していきたい。「そもそもの目的は?」「肝心の費用対効果は?」汗をかいた分、本当にこどものためになっているか。「忘れてはいけない生徒の意識!」生徒は意味を感じているのかなどを問いながら業務改善を行っていく。

#### (3) 下呂中ルール

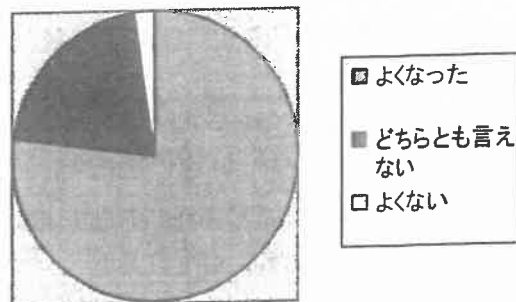
教職員同士での自己研鑽の時間も含めて、最大20時までには校舎を出る。ただし、どうしても20時を超えなければならない時は、管理職と学年主任にその理由を話して残る。学年主任は、分担ができれば仕事を分担する。

## 6 結果と考察

### (1) 生徒の生活

2か月が過ぎ、生徒たちの生活の意識は、4分の3の生徒は良くなったと回答している。良くないと回答した生徒は3名であった。

《16時30分活動終了に伴う生活の意識》



良くなったと回答した生徒の理由は以下のとおりである。

家庭学習の時間が増えた	75人
趣味の時間に使う時間が増えた	74人
家族と過ごす時間が増えた	43人
寝る時間が増えた	39人
翌日の疲れが減った	34人
読書をする時間が増えた	24人
その他	27人

以下のような感想を記載した生徒もいる。

- ・塾へ行くまでに余裕ができ、ゆっくり考えたりする自分の時間が増えた。
- ・自主練とか必要だと思うことを明るい時間にできるようになった。
- ・気持ち的に楽になった。
- ・親が共働きなので、家事をする時間が増えた。

良くないと回答した3名の生徒は、時間の使い方がわからないというものである。

2, 3年生については、昨年度の10月より、1年生については2か月ではあるが、生徒自身、自らの生活が良くなったと言い切る生徒が4分の3にのぼることには驚いた。「気持ち的に楽になった」という生徒の意見をみても、今までの学校で大半を終える中学校の日課が生徒の生活に支障をきたすこともあったと考えなければならない。

また、生徒の良くなった理由として、時間を学習に充てたり、趣味や読書、健康維持に充てたりすること

をあげている。教職員の時間を有効活用させようとする取り組みもあるが、放課後、タブレット端末から学習している状況がみえたり、地域から「こどもたちが走ったり、トレーニングする姿があります。」という話を聞いたりするにつけ、生徒自身、時間を有効活用しようとする思いがあるからだと感じる。

## (2) 教職員の働き方

以下は、本年度の超過勤務時間等の状況である。昨年と比べ、教職員一人につき4月は14時間、5月は20時間の減少、80時間を超える教職員は皆無であり、45時間以上の教職員も減っている。

《令和4年度教職員（21人）の超過勤務時間等》

	4月		5月	
		R3比		R3比
超勤	47h	14h減	39h	20h減
80h超	0人	5人減	0人	4人減
45h超	12	2人増	8人	2人減

以下は、本年度の自己研鑽や休息等の時間である。昨年度より一人平均4時間増えている。

《令和4年度教職員（21人）の自己研鑽・休息時間》

	4月	5月
自己研鑽・休息等	14時間	12時間

自己研鑽の内容を聞くと、「教職員との雑談」や「教科の調査や読書」「進路や部活動の情報収集」などが主なものであった。

昨年度の10月、そして今年度の2ヶ月を終え、教職員は、自らの働き方について以下のような感想を述べている。

- ・先生たちと話す時間が増えた。内容は、こどもの姿や「どうやって生徒に力をつけるか」といった生徒指導の具体や授業改善の話です。
- ・若い先生の話聞く時間が増えた。指導というより一緒に勉強ができる。
- ・わからないことを気楽に聞けるようになりました。
- ・早く帰って子どもの顔を見ることができ、明日の鋭気もらえるかな。

昨年度に比べ、生徒の最終活動時間は1時間20分



【下校後の職員室の様子】

程度早くなっており、単純に計算すると4月は21時間、5月は25時間程度、超過勤務時間は減らすことはできるが、そこ

までには至っていない。しかし、教職員の感想や自己研鑽内容から考えると先生自身も時間を有効活用していることが伺える。

1年生の研修時の取組内容や2年生が中心で行う部活動壮行会内容の変化、3年生が牽引する生徒会活動は創造性を感じ取れるものになってきている。それは、生徒を帰してからの職員室での会話の増加や教職員の笑顔がもたらしていると考ええる。

## III おわりに

まず、今回の研究については、下呂市の中学校長会で考え、下呂市や下呂市教育委員会が支えていただいた16時30分生徒の活動終了時間があつてのことである。一つの学校だけではなかなか実行に移せないこ



【生徒の下校の様子】

とを、市をあげて推進していただいたことに感謝したい。そして、一緒になって取り組んでい

ただける保護者や地域の協力があつてのことであることにも感謝したい。

まだ、始まって間もない研究である。夏日課においては2か月しかたっておらず、今後、新たな課題も発現してくると考える。しかし、ただ単に教職員の超過勤務時間を少なくすることを目的とするのではなく、先生がもっている豊かな創造力を発揮できる環境を整え、こどもにとって幸せを追求する働き方改革となるよう進めていきたい。本校が求める「目標や課題に向かって追求し続ける力」、生徒が学校外でも発揮し、時間の有効活用に向かわせたい。

道半ばであるが、前向きで期待が高まる研究である。教職員一丸となって邁進したい。



【4時30分活動終了においても授業数の心配がない根拠】

平成30年度と令和4年度の比較

平成30年度の授業日数は、1年生203日 2年生201日 3年生189日  
令和4年度の授業日数も平成30年度並みとして考える

平成30年度は、月曜～木曜は、6時間  
金曜は、5時間だが、6時間目は生徒会又は部活動等を入れ 計30時間  
令和4年度は、月・木曜は、6時間  
火・金曜は、5時間  
水曜は、7時間 計29時間

1 年 生	平成30年度	教科+特別活動+道徳+総合 = 1110時間
		生徒会+行事+F = 79時間
		行事 始業式1 入学式1 終業式2 卒業式2 離任式1 集会3 運動会結団式1 運動会3 合唱祭2 三送会2 乗鞍研修10 スポテス2 命を守る訓練3 総合体育大会6
		生徒会 委員会8 対面式1 生徒総会2 運動会係会6 語る会1 生徒会選挙1 F 4月始まりの準備2 交通安全教室1 合唱祭時の食事時間1 大掃除1 卒業式準備練習8 部活動8
令 和 4 年 度		教科+特別活動+道徳+総合 = 1108時間
		生徒会+行事+F = 39時間 (-40)
		行事 始業式1 入学式1 終業式2 卒業式2 離任式1 集会0 (-3) 運動会結団式1 運動会3 合唱祭2 三送会1 (-1) 乗鞍研修3 (-7) スポテス1 (-1) 命を守る訓練4 (+1) 総合体育大会0 (-6)
		生徒会 委員会0 (-8) 対面式1 生徒総会2 運動会係会4 (-2) 語る会0 (-1) 生徒会選挙1 F 4月始まりの準備2 交通安全教室1 合唱祭時の食事時間1 大掃除1 卒業式準備片付練習4 (-4) 部活動0 (-8)

2 年 生	平成30年度	教科+特別活動+道徳+総合 = 1111時間
		生徒会+行事+F = 85時間
		行事 始業式2 入学式1 終業式2 卒業式2 離任式1 集会3 運動会結団式1 運動会3 合唱祭2 市音楽会2 三送会2 名古屋研修6 スポテス2 命を守る訓練3 総合体育大会6
		生徒会 委員会8 対面式1 生徒総会2 運動会係会6 語る会1 生徒会選挙1 F 4月始まりの準備5 交通安全教室1 合唱祭時の食事時間1 市音移動1 大掃除1 市教研準備1 三送会準備2 卒業式準備片付練習8 部活動8
令 和 4 年 度		教科+特別活動+道徳+総合 = 1116時間
		生徒会+行事+F = 47時間 (-38)
		行事 始業式2 入学式1 終業式2 卒業式2 離任式1 集会0 (-3) 運動会結団式1 運動会3 合唱祭2 市音楽会0 (-2) 三送会1 (-1) 名古屋研修6 スポテス1 (-1) 命を守る訓練4 (+1) 総合体育大会0 (-6)
		生徒会 委員会0 (-8) 対面式1 生徒総会2 運動会係会4 (-2) 語る会0 (-1) 生徒会選挙1 F 4月始まりの準備5 交通安全教室1 合唱祭時の食事時間1 市音移動0 (-1) 大掃除1 市教研準備0 (-1) 三送会準備1 (-1) 卒業式準備片付練習4 (-4) 部活動0 (-8)

平成30年度		教科+特別活動+道徳+総合 = 1042時間
	生徒会+行事+F	= 84時間
	行事	始業式2 入学式1 終業式2 卒業式2 集会3 運動会結団式1 運動会3 合唱祭2 市音楽会2 三送会2 修学旅行12 スポテス2 命を守る訓練3 総合体育大会6
	生徒会	委員会8 対面式1 生徒総会2 運動会係会6 語る会1 生徒会選挙1
	F	4月始まりの準備5 交通安全教室1 合唱祭時の食事時間1 市音移動1 大掃除1 卒業式準備練習5 部活動8
		教科+特別活動+道徳+総合 = 1032時間
	生徒会+行事+F	= 54時間 (-30)
	行事	始業式2 入学式1 終業式2 卒業式2 集会0 (-3) 運動会結団式1 運動会3 合唱祭2 市音楽会2 三送会1 (-1) 修学旅行12 スポテス1 (-1) 命を守る訓練4 (+1) 総合体育大会0 (-6)
	生徒会	委員会0 (-8) 対面式1 生徒総会2 運動会係会4 (-2) 語る会0 (-1) 生徒会選挙1
	F	4月始まりの準備5 交通安全教室1 合唱祭時の食事時間1 市音移動1 大掃除1 三送会準備2 卒業式準備練習4 (-1) 部活動0 (-8)

平成30年度の部活動時間

夏 1週間で4時間30分から5時間10分 (金曜の6時間目が部活の場合)

冬 1週間で2時間05分

令和4年度の部活動の時間

夏 1週間で4時間05分

冬 1週間で4時間05分